



学校だより “行きたい学校・帰りたい家・住みたい町”

上小岩



令和7年 1月 8日

NO.9

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司

脱皮い?ニューイヤー ~「新たな挑戦や変化」に前向きに向かう年に~

校長 宮本 知司

明けましておめでとうございます。令和7年乙巳(きのとみ)年となりました。本年も、本校への力強く温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。へびは古来より再生や永遠の象徴とされ、古い皮を脱ぎ捨てて新たな姿へと生まれ変わることから「挑戦や変化に対して前向きに向かい、実を結ぶ年」とも言われます。本校の子供たち一人一人にとって、日々の努力や挑戦がしっかりと自身の成長へと繋がっていくよう、弛まらずに指導を重ねてまいりたいと思います。



さて本校は今年度、江戸川区教育委員会より「教育課題実践推進校」の指定を受け、日々の指導の工夫と改善に努めてきました。来月13日には、一年間重ねてきた研究の成果を発表するため、区内外の学校関係者に向けた授業公開と説明会を実施します。多くの参会者に「明るく元気なかみっ子」の生き生きと学ぶ姿を見ていただけることは、大きな喜びです。保護者の皆様の参観はかないませんが、どうか子供たちの頑張りへの後押しをお願いいたします。

研究の大きなテーマである「魅力ある学校をつくる」ということは、子供たちにとってはもちろん、私たち大人にとっても常に念頭におく「大切で当たり前のこと」であり、永遠のテーマとも言えます。今年度は特別活動(特に学級会)の取組みを重視し、子供たち一人一人が「よりよい自分になろうと努め、進んでよりよい人間関係を築いていこうとする」、そんな学校の姿にしていきたいと考えてきました。

春、全校の子供たちに「魅力ある学校ってどんな学校だろう?」と問いました。「友達がたくさんいる」「給食がおいしい」「笑顔あふれる」「明るい」「真剣」「仲良し」「優しい」「失敗を責めない」…とたくさん出てきた言葉の中に「魅力ある学校は上小岩小です」というストレートな意見もあり、思わず嬉しくなりました。一番多く挙げられた『楽しい』という言葉が代表委員会の子供たちは追究し、楽しさには「一人一人にとっての楽しさ」と、一つのことをみんなで達成する「協力の楽しさ」とがあるだろうとまとめました。(まさにその通りですね!)そして、「それを実現できる学校が魅力ある上小岩小学校です」ということです。

「私たちにできることはなんだろう?」と始めたお年玉募金のように、本校の子供たちには伝統的に「自分たちで考えて実践する」という意志と行動力とがあります。今年も、子供たちの頑張りとする気持ちを高めながら、自分たちの力で楽しい学校を作っていこうとする姿を全力で支えていきたいと思います。

明るく元気なかみっ子を

本年もどうぞよろしくお願いたします。



◆お年玉募金の始まり

昭和五十二年から実践している「お年玉募金」は、「社会のために役立ちたい。」「今の私たちにできることはないだろうか。」ということとを代表委員会で考えて、始めました。集められた募金は区長や「長安寮」へ届けていただきました。区長さんからは、感謝の言葉をいただいたり、長安寮の方々からは、喜びと感謝の手紙が届けられました。

お年玉募金は、今でも、全校をあげて取り組んでいます。上小岩小学校で始まったお年玉募金は、昭和五十四年度には、江戸川区の他の学校にも広がり、わたしたちの善意の気持ちが響き合って大きな活動へと広がりました。



「開校90周年記念誌」より

学校評議員の大久保 誠太郎氏(六東自治会副会長)が、長年に渡る区政への貢献から『令和6年度区政功労者表彰』を受賞されました。本校にとっても非常に嬉しい報です。おめでとうございます。